

生活支援 コーディネーター通信

社会福祉法人 当別町社会福祉協議会

Instagram follow me!!

社会福祉協議会の活動状況を公式Instagramでも発信しています!

@tobetsushakyo



No.5

2024年
7月1日発行

Topics

地域づくり推進セミナー 「なぜ、今地域支え合いが必要なのか？」開催

生活支援コーディネーターが地域づくりを

当別町福祉部介護課高齢者支援系の保健師より「高齢者の生活を支える地域づくり」をテーマした生活支援体制整備事業の説明がありました。

また、生活支援コーディネーターより活動の報告や地域活動支援の具体例を報告しました。生活支援コーディネーターの役割は、地域の方の「想いをカタチに」すること、「高齢になってもその人に合った“役割”を支援する」ことであることをお伝えしました。



地域住民、関係機関の計48名が参加

地域活動実践者が報告

地域活動を実践している山下義則氏（元町町内会会長）、スウェーデンヒルズ町内会の遠藤民生児童委員にご登壇いただき、ご自身の町内会で行っている地域活動を始めたきっかけや苦労した点などをお話していただきました。参加者のアンケートからは、活動実践報告は参考になったといった声が多く寄せられ、他の町内会にも広がるきっかけとなりました。



元町町内会の地域活動

- 活動内容** 体力測定会、体操教室（6回/年）
- 協力機関** 東苗穂病院リハビリテーション部
- 参加人数** 20名程度
- 活動経緯** 町内会長からコロナ禍の中で閉じこもりの人が増えているのできっかけとして体力測定会をしたいと希望があり、生活支援コーディネーターが協力機関に相談し実施することとなりました。



スウェーデンヒルズ町内会の地域活動

- 活動内容** 健康、当別町に関する講話・体験（1回/月）
- 協力機関** 当別町内の様々な関係機関
- 参加人数** 20名程度
- 活動経緯** 民生児童委員から地域の繋がりづくりと学びの場として“ヒルズ自由塾”を開催したいと希望があり、助成金申請について生活支援コーディネーターが支援しました。



高齢でも認知症でも 気軽に集まれる居場所

地域には、地域のために何かしたいという思いをもった住民が多くいます。特に、コロナ感染対策緩和後には、新たなサロンを開始する人や団体が増えています。生活支援コーディネーターは新たな居場所づくりを支援しています。ここでは当別町で生まれた新たなサロンを紹介します。



きっかけは認知症の母を介護した経験

今年3月、過去に認知症の母を介護した経験のある方から「認知症の方も楽しく集まれるサロンを始めたい」という相談が生活支援コーディネーターに寄せられました。認知症の方が集まれる場所は主に公的サービスであるデイサービスなどに限られ、制度外で気軽に集まれる場所は当別町には少ないのが現状でした。新たな社会資源開発のため、相談者と開催に必要な事項について打ち合わせを行いました。

“支える”と“支えられる”の垣根を超えた居場所へ

第1回は自己紹介から始まり、生活支援コーディネーターが体操を指導しました。その後は代表の方とボランティアの方が作った豆カレーを皆で楽しみました。会話も次第に盛り上がり、初対面の方同士も交流が深まっていました。食事の片付けや食器洗いなども参加者が自然に行い、ボランティアと参加者が一体となって楽しい時間を過ごしました。



生活支援コーディネーターのひとこと

当別町の様々なサロンを把握していますが、場所が公共施設であることや参加者の固定化といった課題があります。今回のサロンでは「認知症の方も」を対象にすることで、新たな特徴を持つ居場所になったと考えています。実際に参加している方の中で認知症の方は少ないですが、「認知症になっても楽しめる居場所」があるまちづくりを推進したいという意欲を今回のサロン支援を通じて感じました。

